



宏魂

(たっこん)

後期学校評価



京都市立大宅小学校
校長 西山 正晃
京都市山科区大宅五反畠町69-2
TEL (075) 591-0015
FAX (075) 591-0096
E-mail:oyake-s@edu.city.kyoto.jp



児童自己評価

A…よくできている
B…おおむねできている
C…あまりできていない
D…できていない

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	(%)
すすんであいさつできている。	44%	42%	12%	2%	
学校でほめられている。	20%	42%	32%	6%	
家でほめられている。	30%	41%	23%	6%	
外で元気に遊んでいる。	54%	25%	14%	7%	
早く寝ている。※9時(低学年)9時半(中学年)10時(高学年)までに寝る。	29%	30%	23%	18%	
早く起きている。※朝7時までに起きる。	59%	21%	13%	7%	
毎日、朝ごはんを食べている。	84%	10%	4%	2%	
学級は楽しい。	64%	27%	6%	3%	
シングルがなつたら教室にもどって席についている。	52%	39%	7%	2%	
ていねいな言葉づかいができる。	28%	46%	20%	6%	
授業がよくわかる。	47%	40%	10%	3%	
本を読むのが好きだ。	54%	24%	12%	10%	
家庭学習(宿題)をしている(15分×学年)。	56%	26%	12%	6%	

「よりよい学校をつくるための学校評価」を行いました。お忙しい中、保護者・地域の皆様にはご協力いただき、感謝申し上げます。
保護者の皆様のアンケート項目をできる限り合わせ、同じ内容について、それぞれの立場からのご意見を集約することができました。この結果を教職員一同で共通理解し、来年度に向けて改善を図っていきたいと思います。

学習面について

○『授業がよくわかる』については、児童は「そう思う」48%、「大体そう思う」39%と高い数値でしたが、教職員は「そう思う」21%、「大体そう思う」79%でした。教職員は子どもたち一人一人に届くような授業づくりを目指していますが、学習定着には個人差が見られます。漢字や計算問題は反復練習が大切であり、真剣に家庭学習に取り組む児童ほど定着しています。また、基礎的な学力をしっかりと身につけている児童ほど、応用問題にも既習事項を活用して取り組むことができます。

来年度は新学習指導要領の完全実施や英語の教科化が行われます。本校は英語の教科化に向けて、全市発表等で先進的な取組を実践してきました。今後も子どもたちが楽しく、意欲的に学習できるように、学習指導の充実を図ってまいります。

保護者による外部評価

A…よくできている
B…おおむねできている
C…あまりできていない
D…できていない

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	(%)
すすんであいさつをする。	11%	50%	33%	6%	
学校での様子を話す。	45%	41%	13%	1%	
家で友達のよいところを話す。	26%	57%	16%	1%	
お子さんのよいところを見つけ、ほめている。	29%	67%	3%	1%	

休まず学校に行っている。	82%	16%	1%	1%
早寝ができる。※9時(低学年)9時半(中)10時(高)までに寝る。	25%	30%	35%	10%
早起きができる。※朝7時までに起きる。	42%	33%	19%	6%
毎日朝ごはんを食べている。	84%	7%	6%	3%

楽しんで学校に行っている。	63%	33%	3%	1%
集団登校に遅れずに行っている。	77%	16%	3%	4%
やわらかな言葉づかいができる。	21%	54%	21%	4%

自分から進んで家庭学習をする。	32%	37%	21%	10%
本を読むのが好きだ。	46%	20%	23%	11%
毎日家庭学習(宿題を含む)をしている。目安は【15分×学年】です。	40%	31%	21%	8%

生活面について

○『学級は楽しい』については、児童は「そう思う」64%、「大体そう思う」27%、保護者は「そう思う」63%、「大体そう思う」33%ととても高い数値でした。教職員も「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、100%でした。児童の人間関係は概ね良好であることが分かりました。しかし、9%の児童が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答しています。来年度は今まで以上に、注意深く児童の様子を見守っていきます。
○『家でほめられている』については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、児童71%、保護者は96%でした。教職員は、児童のよいところをその都度取り上げてほめることで、学級全体で共有できるように指導しています。ご家庭でも、児童が自分の行動のふり返りをできるように、さらに具体的に分かりやすく話を聞いていただければと思います。

教職員自己評価

A…よくできている
B…おおむねできている
C…あまりできていない
D…できていない

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	(%)
人権 「笑顔であいさつする子」	33%	67%	0%	0%	
笑顔であいさつする取組はできていますか。	33%	67%	0%	0%	
子どもが友達の良いところや、がんばりを認めようとする態度を育てていますか。	33%	67%	0%	0%	
子どものよいところを見つけて、ほめていますか。	33%	67%	0%	0%	

健康 「体をきたえる子」

体育の授業で、子どもの運動量の確保ができますか。	50%	50%	0%	0%
休み時間に外で遊ぶように働きかけていますか。	0%	100%	0%	0%
生活向上を目指した健康目標の取組はできますか。	0%	100%	0%	0%
食生活の向上を目指した取組はできますか。	50%	50%	0%	0%

生徒指導 「約束を守る子」

子どもが楽しくすごせる学級作りができますか。	50%	50%	0%	0%
チャイムと共に授業を始めていますか。	67%	33%	0%	0%
やわらかい言葉づかいができるように、子どもたちの会話を気をつけ、言い直しをさせていますか。	33%	67%	0%	0%

研究 「よく考える子」

子どもが活躍する授業をしていますか。	33%	67%	0%	0%
昼読書や図書室を活用し、本好きの子どもを育てていますか。	67%	33%	0%	0%
家庭学習が継続的にできるように、適切な課題(計算・漢字・音読など)を与えていますか。	67%	33%	0%	0%

健康面について

○『『外で元気に遊んでいる』については、「そう思う」と「大体そう思う」を合わせると、児童・教職員ともに77%でした。しかし、学校の短い休み時間だけでは、体をきたえるという点では十分ではありません。ご家庭でも、定期的に余暇を活用した運動が必要です。家族で体力向上に取り組んでもらえると幸いです。
○『毎日、朝ごはんを食べている』については、「そう思う」と「大体そう思う」を合わせると児童94%、保護者91%、教職員94%でした。学校では家庭科の学習や給食以外にも、栄養教諭による「食に関する指導」を定期的に実施し、栄養バランスや食生活の向上などについて指導しています。ご家庭でも食生活の向上について、再度話し合っていただければと思います。